

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3393500081 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 ラヴィラント | | |
| 事業所名 | グループホーム バオバブの木 | | |
| 所在地 | 岡山県苫田郡鏡野町富東谷438 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 2年10月23日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ライフサポート | | |
| 所在地 | 岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館 | | |
| 訪問調査日 | 令和2年12月11日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、感染症の影響で外出を控えたり面会を制限させていただいているため満足なサービスが実施できていない状況です。なかなか外出ができませんが、天気の良い日には近くへ散歩に出て気分転換をしています。施設内では、毎日のレクや体操、歩行訓練で楽しみながら身体を動かしていただけるよう、毎日のメニューを考えています。入所以来常時車椅子移動だった利用者さんが、押し車を使用して歩行できるようになり、本人がたいへん喜ばれたり歩行状態に効果がみられた利用者さんもおられました。口腔ケアにも力を入れ、「口の中から健康に！」を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

いつもGH「バオバブの木」を訪問して感じる事であるが、どの利用者さんも突然の訪問者である私達を笑顔で気持ちよく迎えて下さる。地域柄もあるかもしれないが、普段から地域の人との交流が頻繁にあり、様々な地域イベント等を通じて人とのつながりが深いからだろうと思う。残念ながら今年は新型コロナウイルスの影響で利用者さん達とは少し距離を置き、食事も一緒ではなかったが、戸外の散歩に同行しマスク装着ではあるが一緒に歌を歌ったり、踊ったり、お話ししたりと十分楽しい時を過ごさせてもらった。副理事長手作りの高血圧食も体に優しく美味しく、高齢の人が多いこのホームの利用者さんがいつまでも元気なのは食事が大きく貢献しているからだろう。その証拠に入所前は薬が必要だった人達が、今では糖尿病等の薬が不必要になったと聞いた。温かい雰囲気の中で家族のように仲良く暮らしているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念は、毎日職員の目に留まるよう、ロッカールーム、ホールに掲示して、日々の実践につなげられるよう努めています。 | 理念「人としての尊厳を第一に安心安全の介護をめざします」を掲げて、常に利用者が穏やかに過ごせるように職員一同日々のケアに努めている。目標として記録類の見直しに取り組んでおり、4項目(起床・トイレ・入浴・見回り)を増やし、共有しやすいように改善した。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 例年通り交流したいと思っていますが、感染防止のためできていません。 | 恒例の保育園との交流会、富文化祭への作品の出展や見学等幅広く地域との交流をしていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、地域でのイベント等も次々と中止や延期となり、残念ながら今は本来の交流が出来ていない。 | このコロナ禍にあっても、富ボランティアの方々が裏庭の草取りなど外掃除をしてくれたと聞いた。日頃のお付き合いや協力関係が素晴らしい地域だなと改めて思った。早くいつもの日常に戻れる事を願っています。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議では、施設の様子を見ていただいたり状況報告等する中で、認知症について理解していただけるようお話をしています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 7月より運営推進会議を再開しました。施設内で行うため、感染防止に努めながら生活の状況を見ていただいたり状況報告等を行いご意見をいただいています。 | 行政、地域の方等、多くの方々が参加して毎年定期的に実施していた運営推進会議も新型コロナウイルスの収束が見込めない中、年度途中から開催を控え、今は資料の送付等をしてホームの状況をお伝えしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 何かあれば随時相談します。 | 今年度はコロナ禍に関連して、鏡野町からの連絡を受けたり、ホーム側からも伝達や相談を密に行い、感染対策等を話し合っている。運営推進会議も十分行えていないので、何かあれば電話等で相談しアドバイスや指導をいただいている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 施設内研修や身体拘束廃止委員会を行っています。常時車椅子使用の利用者さんが自分でベッドから降りられたりと目の届かないところで危険もありますが、見守りを増やして身体拘束をしないケアを行っています。 | 禁止の対象となるような事例はないが、定期的に「虐待防止について」等、身体拘束やスピーチロックに関する勉強会をしている。職員に対して、自分や家族がされて嫌な事と感じたり思う事はやめよう等と話し合っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修では自分の介護を振り返り、虐待のないケアを行っています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用されている利用者さんもおられ、後見人の方とお話したりする中で勉強させていただいています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際には十分な説明を行い、ご理解いただけるよう努めています。疑問点等が出れば、その都度対応するようにしています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 積極的に意見を言われる方は少ないので、機会を見つけてこちらから聞くよう心がけています。 | 写真を満載した毎月発行の「バオバブ*ねむだより」を家族に送付し、イベントや日々の生活の様子をお伝えする他、写真掲載の個別のお便りも出してより詳しい状況報告をしている。また、家族の訪問時には出来る限り意見や要望を聞くようにしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議やミーティング、申し送り、面談の他、普段から意見を聞けるように努めています。意見があれば代表者と管理者で話し合いをして対応します。 | 職員からの意見や提案があれば、代表、管理者等で取り上げ改善に向けて皆で話し合い運営に反映している。介護記録の書き方についても効率良く共有しやすいように改善した。勤務年数の長い職員が多いのでコミュニケーションも取りやすく仲も良い。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務状況や資格の獲得等に応じて昇給を考慮しています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 今年度は感染症の影響で施設外研修に参加しにくく、施設内の研修が主になっています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 今年度は感染症の影響で施設外の方と交流する機会を作れていません。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居して間もない利用者さんには特に、ご家族からその都度情報をいただいたり、信頼関係が築けるよう生活の様子の観察、傾聴に心掛けています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 相談、申し込み、面接の際には、困っていること等、お話を詳しく伺います。特に初期は、家族が安心して利用者さんを預けられるよう配慮して様子を伝えたり情報をいただいたり関係づくりに努めています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人の様子や家族等のお話を伺う中で、当事業所のサービスでよいのか等、協力医等にもアドバイスをいただきながら、他サービスも含めた対応に努めています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 自分のことでも施設のことでも、食事の片づけや掃除等できることはしていただき、一方的な立場にならないようにしています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者さんはやはりご家族を必要とされておられるので、安心できる立場として協力していただきたい思いをお伝えしています。入所以来強い帰宅願望が現れる利用者さんもおられますが、ご家族が度々来てくれることで落ち着いた様子のみられる方もおられます。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今年度は感染症の影響で外出を控えたり面会を制限させていただいているためなかなか関係継続の支援ができていませんが、ご家族に協力していただいで時々自宅へ帰ってこられる利用者さんもおられます。 | 面会についてはお便り等でお願いや注意点を伝えながら出来る限り家族の面会等、関係継続を支援している。今日も受診のお迎えに来た息子さんに出会った。自宅に帰った人が「タミを久しぶりに踏んだ」と喜ばれたという記録もあった。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 決まった利用者さん同士お話をすることが多いですが、時にはいろいろな方とお話できるよう職員からも働きかけ居場所作りを支援します。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後も、機会があれば家族等から様子をお聞きし、必要に応じて支援できるようにしています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の会話から思いを聞き出し、できる限り希望に添えるようにという思いですが、今年度は感染症の影響で外出や人との面会が難しいため実行できていないこともあります。 | 自分の意志を言葉で伝えられる人も多く、例えば「一人で自宅に居るとする事があるが、ホームではする事がない」などの思いを聞いて、台拭きなど出来る範囲の手伝いをしてもらっている。また、その日の当番制を作り、皆が主役となり役割を持ってもらっている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 面接時や契約時に得られた情報だけでなく、普段の会話から得られた情報も大切にしています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 変化に気づいたときには、申し送りやミーティング等で話し合い、伝達ノートに記録し、職員全体で現状把握ができるようにしています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアマネ、管理者、介護職員それぞれの立場で、本人や家族や関係者から話を聞いたことを介護計画につなげられるよう、会議等で話し合いを行います。 | 定期的にケアカンファレンスをして、その時々の利用者の状態を職員間で話し合い、ニーズ(課題)を拾い出して現状に即したプランを作成している。また、どう暮らしたいと思っているか本人の意向もよく聞いて、その人らしい生活のサポートを心がけている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 具体的な記録を残すことを目標に実践してきました。他職員にもわかりやすくご家族にも様子を伝えやすくなっています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 基本的に家族の同行をお願いしていますが、場合によっては職員で対応する等、その時々状況に配慮したサービスを行うよう努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 例年、特に運営推進委員の方を中心に避難訓練に参加して下さったり、利用者さんの安全面等についてよく気にかけていただいておりますが、今年度は感染症の影響で様々な制限があり地域の方々との関わりをもつことができていません。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所の際に、事業所の協力医に変更される方が多いですが、それぞれの希望のかかりつけ医が定期的に往診してくださっており、必要に応じて受診し、その都度適切な医療を受けられるようにしています。 | 日頃から医療と介護との連携がしっかり出来ており、協力医の往診、訪問歯科、歯科衛生士による口腔ケア指導、訪問看護等に加え、職員に看護師もいるので、利用者・家族・職員ともに心強く安心出来る。午後は歯科衛生士の訪問があり、早口言葉・吹き出しを使った口の運動等を私達も利用者さんと一緒に楽しく行った。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師の資格をもった職員が1名勤務しており、心身の状態については指示を仰いでいます。週1回の医療機関からの訪問看護では、心身の状態を診ていただき、受診や介護につなげています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院の際にはお互いに情報を共有し、入院中もその都度相談員さん等と連絡を取り合うようにしています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の指針、看取り等の考えについて、まず入居の際に説明させていただき、ご家族にもそのことについて考えていただきます。終末期が近づいたと判断されるときには、終末期の事業所のあり方等を伝え、ご家族、主治医と話し合い、共に支えていけるようにと考えています。 | 開設以来数名の看取りを経験してきたが、今年の春も1週間ほど食欲のなかったAさんを老衰で見送った。医療との連携がしっかり出来てるので急変した場合にも迅速に対応してもらえる。特養や自宅近くのホームへ移行した人もいるが、終末期のホームの方針を家族とは日頃からよく話し合っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 例年救急法の講習会を開いて職員で研修を行いますが、昨年度末から感染症の影響で講習会が開けない状況のため、今年度は実践的な研修は難しい状況です。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎年一回は地域の方に参加いただいて避難訓練を実施していますが、今年度は感染防止のため施設内のみで避難訓練を行いました。 | 地震や火災発生時を想定して避難訓練をしている。裏のテラス側の避難経路から全員が外へ避難したが、当日出勤以外の職員は地域住民役として行動し、逆の視点から見た不備な部分を確認し合った。また、これまで事務所内にあった個々の避難カードを迅速に持ち出せるように玄関に置くように変更した。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 理念にも掲げ、一人一人を尊重することを大切にしています。なれ合いになってしまわないよう気をつけなければならないと話しています。 | トイレや風呂の介助時には羞恥心やプライバシーに配慮して他の人の目に触れないように工夫をしたり、ドアの開閉にも気を遣うようにしている。また呼称については、利用者が自分で考えた愛称で呼んでいる例もあり、一人ひとりを尊重して本人が喜ぶ呼び方をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常の中で思いや希望を表せない方には選択肢を示し、自己決定できるようにしていただきます。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 行事等の都合上希望に沿えないときもありますが、居室で過ごされたり、ホールで過ごされたり、散歩へ出られたり、と普段はそれぞれの希望やペースで過ごされています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご自分で希望される方もおられたり、そうでない方には定期的に声をかけて地域の理美容室へ出かけて身だしなみを整えます。ご自身が長年通ってきた地元美容室を希望される方もおられ、ご家族にご協力いただいています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎月一回程度おやつや昼食をみんなで作ります。毎食前の口腔体操や食事後の片づけの当番制を継続しており、役割をもって生活できているようです。 | 毎月のクッキングの日にはBQをすることもあり、利用者さんも野菜切りやおにぎりを握ってお手伝い。「焼き肉のええにおいじゃな〜」「さつまいもがええなあ！」等と大人気。日々の食事は減塩食になっており、バランスの良い食事で、例えば糖尿病等で薬が必要であった方が入所後に不要になり改善した例もあるようだ。 | 三食、高血圧食を作って提供しており、体に優しく美味しい献立が利用者の元気の源になっている。入所後に症状が改善した人が何人もいと聞いている。これからも医食同源の食事療法の実践を応援しています。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人一人の食べられる量やスピード等に合わせ声かけや介助を行います。水分量はチェック表に記入して誰が見てもわかるようにしています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後自分で口腔ケアを行います。月2回歯科医又は歯科衛生士の口腔指導を受けています。毎食前の口腔体操にもしっかり取り組んでいます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人一人に合ったパンツやパットを使用しており、職員は排泄パターンを把握して時間をみて声かけを行い自立排泄を支援しています。 | 車椅子の人1名がオシメである他は、皆、紙パンツ+パットで過ごしている。声掛けや誘導により自分でトイレに行ける人も多く、一人ひとりに適した排泄用品を職員間で検討し合い、快適に過ごしてもらうようにしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分摂取や日々の体操、歩行運動で予防に努めていますが、それでも便秘の方もおられるので、必要に応じて看護師が適切な対応を行います。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週3回、9時半～16時の間で希望の時間帯に声かけする等、できるだけ利用者さんの好きな時間に入浴していただけるよう配慮しています。入浴拒否もみられますが、職員が代わる代わる声をかけたりしながら清潔に生活できるように努めています。 | シャワーチェアを利用している人もいるが、自分で浴槽に入れる人が殆どで、職員とマンツーマンで会話を楽しみながらゆっくり入浴出来ている。頭が痛い、しんどい等と訴えて入浴を渋る人もいるが、入ると歌を歌ったり子供の頃の話をも自分からして気持ちいいと喜ばれるそうだ。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | それぞれの希望やペースによって休息していただいておりますが、昼夜逆転にならないよう配慮して休んでいただけるよう支援しています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 特に新しい薬の処方があったとき等は様子をよく観察し、症状の変化を主治医にその都度報告、相談し判断を仰いでいます。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食事の片づけや洗濯物、居室の掃除等を自分たちで行っています。ホールの掃除を日課にされている利用者さんもおられたり、それぞれのペースで生活されています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 今年度は感染症の影響で外出ができないため、近くへの散歩が中心です。面会の制限もさせていたため、ご家族に協力していただき、自宅へ短時間帰ってこられる利用者さんもおられます。 | 午前中塗り絵をした後、天気も良いので年賀状に使う押し花を摘みにすぐ近くの花壇に利用者全員でのお出掛けに私達も同行し、一緒に歌を歌ったり話をして過ごした。初詣へ、春は久世へ桜を見、秋のドライブでは車窓で紅葉を見学する等、コロナ禍で回数は減ったものの非日常を楽しんでもらう機会も設けている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を紛失される恐れがあるため、原則持ち込みはお断りしています。必要に応じて事業所で立て替え、自分たちで買い物等ができるようにしています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者さんの方から手紙を出したり電話をしたりすることの希望はありませんが、ご家族からたまに手紙が届くことを楽しみに過ごしておられる利用者さんもおられます。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | みんなが集まるホールには利用者さんが作った季節の壁画を飾って季節感を感じられるよう定期的に製作を支援しています。毎朝、職員と利用者さんが協力して掃除をして清潔を保っています。 | 積雪の多い冬場でも室内で運動が出来るように、広いリビングや廊下、床暖房もあり、快適な空間となっていて、毎日リビングを掃除してくれる利用者さんもいるとの事。午前・午後とリビングからは賑やかな歓声が響き、平均年齢は高くてもお元気な人が多く活気がある。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | それぞれの利用者さんが思い思いに過ごせるようソファや椅子を配置し、自由にくつろいでいただけるよう配慮しています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | それぞれの居室は、ベッド、洗面台、加湿器が備え付けで、その他の家具等は本人の馴染みのものや使いやすいものを持ち込んでいただけるようにしています。 | 各居室は広くゆったりとしており、ベッドの上に孫の写真を立てかけて飾ったり、塗り絵等の作品を飾ったりしてそれぞれ過ごしやすく落ち着いた環境になっている。その人の状態に合わせ転倒防止用にクッションマットを敷いたり、センサーを設置して安全対策を施している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | それぞれの状態に応じて、部屋をわかりやすくしたり、共同で使用する場所の空き状況等も自分で判断できるよう工夫しています。 | | |